# ちょっと名大史

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

## 92 名高商校長 渡邊龍聖（りゅうせい） ― 名大をひきいた人びと④ ―

本学経済学部の前身にあたる名古屋高等商業学校（名高商）の初代校長渡邊龍聖は、慶応元(1865)年、現在の新潟県長岡市に生まれました。

東京専門学校（現在の早稲田大学）を卒業、帝国大学文科大学（現在の東京大学文学部）で学んだのち、1889(明治22)年からアメリカに留学、ニューヨーク州のコーネル大学で哲学博士号を取得しました。そして日清戦争中の94年に帰国、高等師範学校教授となりました。その後、1901年には東京音楽学校校長、02年からは清国直隷総督の袁世凱（のちの中華民国大総統）の学務顧問として派遣され、直隷省の教育改革にあたるなど、倫理学者としてだけでなく、教育行政にも手腕を発揮しました。

そして1911年、新設された小樽高等商業学校（現在の小樽商科大学）の初代校長に就任します。この小樽高商での経験が、のちに名高商で存分に生かされることになりました。やがて渡邊は、名高商の創立委員長を務めたのち、1920(大正９)年に設置された名高商の初代校長に就任したのです。

渡邊校長は、１学年時には教養科目を重視し、２・３学年時には実践的な科目や最新の教授法を積極的に取り入れた、特色あるカリキュラムを導入し、これらを担う気鋭の教員を全国から集めました。また実習のため、校内に印刷工場を建てるなど、施設面の充実も進めました。そのほか、「学生は学生らしくあること」「学生は学生の本分を忘るるな」という「二代信条」に集約される、全国でも有名になった厳格な校風、将来の経済人として、学生に教養豊かな紳士の風格を求める人格主義の教育方針、そして総合大学にも擬せられるほどの多様かつ高い学術水準、いずれも渡邊校長が確立したものです。

渡邊校長は、1935(昭和10)年に惜しまれつつ勇退しましたが、その後も名古屋市内に居を構えて、亡くなる直前まで名高商を見守り続けました。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 3 | 4 |
| 2 | | |

1 渡邊龍聖（1865－1945、写真は1933年頃）。生年については、文久２(1862)年とする有力な説もあるが、墓石に「行年八十才」とあることから、ここではそれに従った。最晩年は空襲を避けて名古屋市から三重県桑名市へ疎開し、敗戦直前の７月に病気のため亡くなった。

2 名高商の校長室に座る渡邊龍聖（1926年頃）。

3 渡邊龍聖の墓。名大東山キャンパスにほど近い、八事の興正寺にある。1956(昭和31)年にキヨ夫人によって建立され、夫人もここに眠っている。また、墓のすぐ前方には、1992(平成４)年にキタン会によって建てられた石碑がある。

4 渡邊龍聖像。1938年、渡邊の銅像が名高商内に建立されたが、まもなく戦争のために供出されてしまった。現在の像は、1980年の名高商創立60周年を記念して、キタン会によって建てられたもの。当初は名高商があった名市大川澄キャンパスにあったが、現在は名大の経済学部と法学部の間の「キタン庭園」に置かれている。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話052-789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。